



安全なくらしを守る

太田市の消ぼう

こんにちは



太田市消ぼう本部

○ 太田市の消ぼうのしくみ

太田市ではとなりの大泉町ときょう同で助け合いながら消ぼうの仕事をしています。

これを「太田市消ぼう本部」といっています。

太田市消ぼう本部には、**349**人の消ぼうしょく員がはたらいていて、毎日24時間こうたいで、いつでも出動できるようにそなえています。

○ 消ぼうの仕事

町の人びとを火事などの「さいがい」から守り、みんなが安心してくらせるようにしています。

《主な仕事》

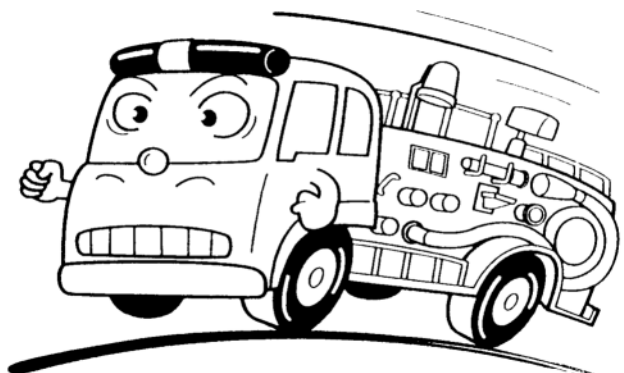
① 火事の予防

(みんなが火事をおこさないようにする)



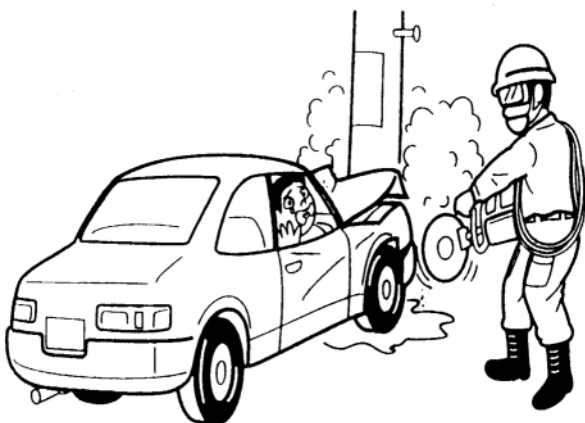
② 消火活動

(おきた火事を早くかけつけて消す)



③ 救助活動

(人をあぶないところから安全なところに助け出す)



④ 救急活動

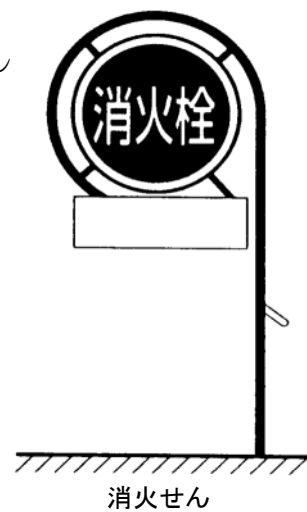
(ケガ人や病人を手当して早く病院へはこぶ)



おおたし しょう ほんぶ かんない ず
太田市消ぼう本部の管内りやく図



○ 「消ぼう水り」のひょうしき
町のなかや学校のまわり、家の近くにもたくさん
立っています。



○ 消ぼうのしせつ

太田市消ぼう本部、1つの「消ぼう本部」と4つの「消ぼうしょ」4つの「分しょ」1つの「出ちょう所」のしせつがあります。

太田市には、火事の際に消ぼう自動車に水をほきゅうするしせつもたくさんできています。

これを「消ぼう水り」とよんでいます。

(1)消火せん（水道かんの水を取り出すしせつ）

(2)ぼう火水そう（地下に水をためておくしせつ）

※学校のプールの水も「消ぼう水り」としてつかうことがあります。

○ 消ぼうのせつび

「消ぼう本部」には、指れいせつびがあり1市1町のかん内ぜんぶの119番つうほうが入ってくるようになっています。

すべての「消ぼうしょ」と「分しょ」と「しゅっちょうじょ」には、消ぼう自動車と救急車がはいちされています。



指れい車(8台)



はしご車(2台)



きゅう助工作車(2台)



化学車(4台)



水そう付ポンプ車(8台)



太田市消ぼう団車(34台)



水そう車(1台)



きゅう急車(12台)

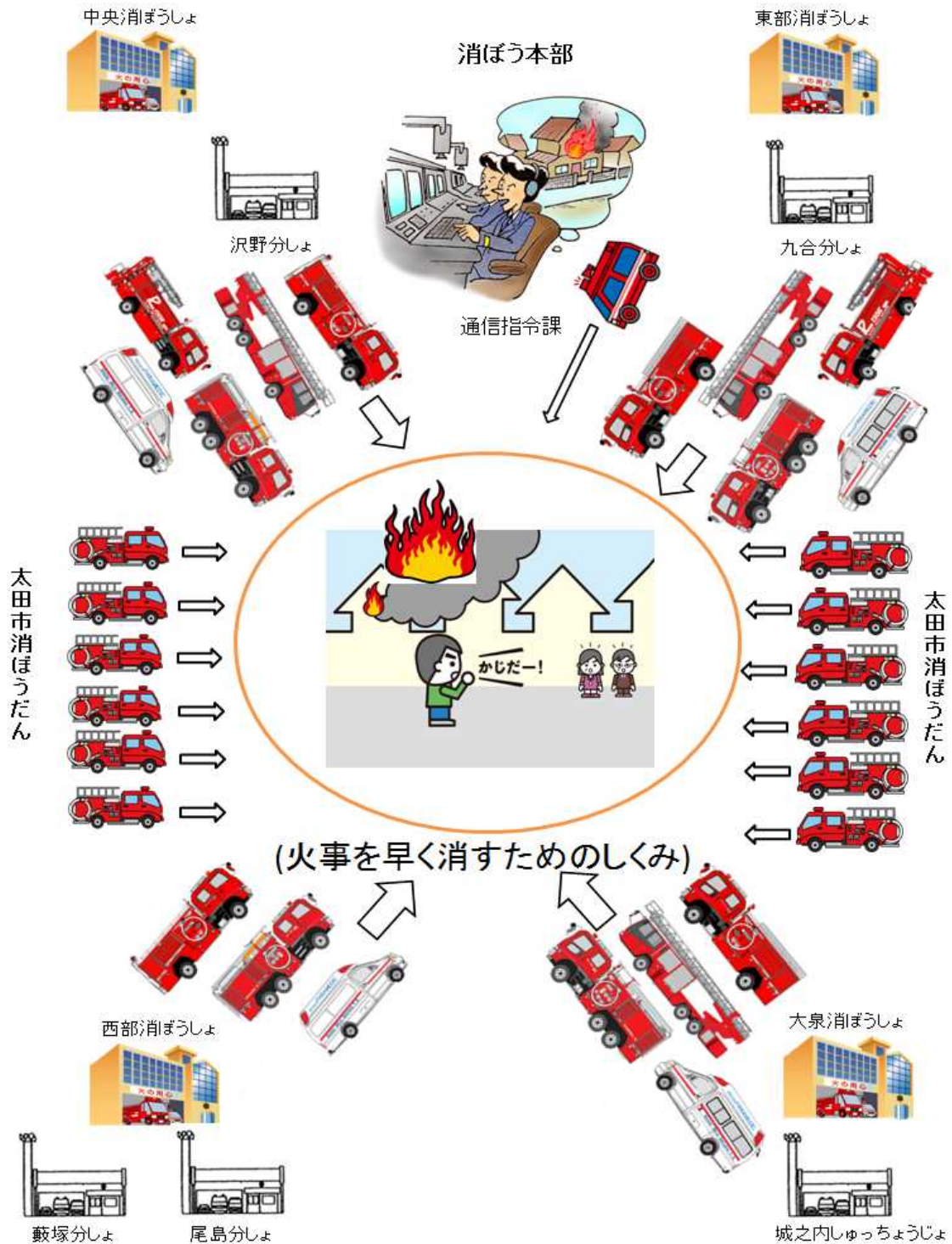


水上バイク(1台)

消ぼうしょの車には、すべて「無せん機」がついていて、どの車からでもおたがいに連らくがとれるようになっています。

※学校の中にも、火さいほう知機や消火器、おく内消火せん、ぼう火シャッターなどの「消ぼう用せつび」があります。

[太田市消防のしせつ・せつび]



○ 火事を早く消すためのしくみ

119番で火事の知らせをうけると、消ぼう本部の「通しん指れいせつび」から一せい放送で、火事のげん場に一番近い「消ぼうしょ」をすぐに出動させます。

そのまわりの「消ぼうしょ」も「分しょ」も「出ちょう所」も放送を聞いて、おうえんに行きます。

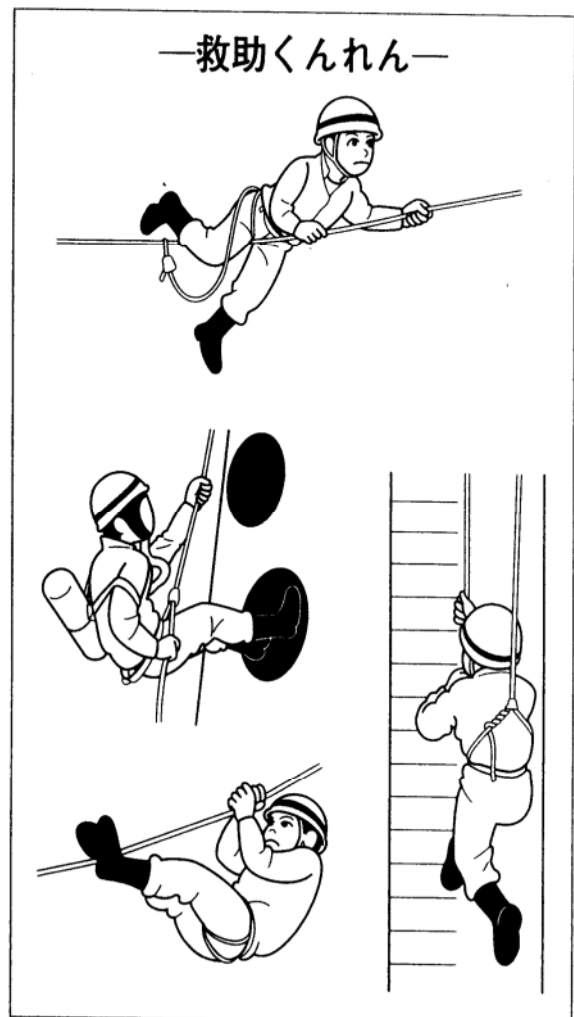
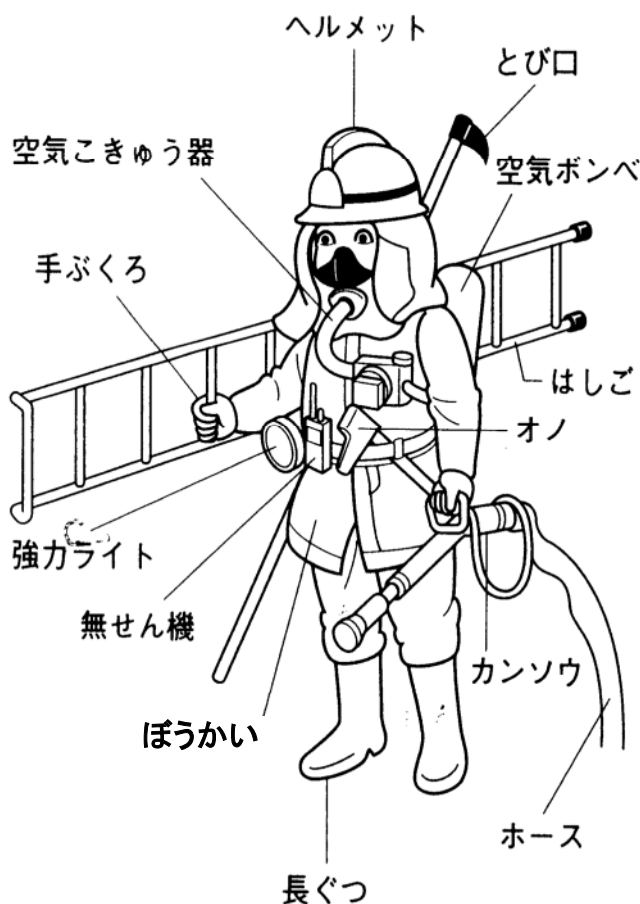
火事がもっと大きくなりそうなときは、大きなサイレンをならして「消ぼうだん」の人たちにもあつまってもらい、みんなで協力しながら、なるべく早く火事を消すようにします。

(太田市には、ふだんは他の仕事をもっている消ぼうだんの人たちが514人います。)

○ 火事を早く消すために

毎日くんれんをしたり、地図をしらべて「消ぼう水り」のある場所をおぼえておいたり「火事を消すためにひつようなもの」の手入れをしていざというときにそなえています。

火事を消すためにひつようなもの



○ 火事をふせぐために

火事はおこさないようにすること「火さい予ぼう」が大切です。消ぼうしょの人たちは、火事を消すだけではなく、どうして火事になったのかも調べます。

そして火事の「原いん」をみんなに知ってもらい、おなじ火事をまたおこさないように注意をしてもらうようにします。

- ① 学校や会社、病院などへ行って「ぼう火指どう」をする。
- ② 町に「ぼう火ポスター」をはったり、家一けん一けん「ぼう火チラシ」をくばったりする。
- ③ 火事のおこりやすいじきには、消ぼう自動車で町をまわりながら注意をよびかける。

○ 火事をおこさないようにするために

・ みんなが気を付けること

- ① マッチやライターであそばない。
- ② 子どもだけで花火やたき火をしない。
- ③ ストーブのそばであそばない。
- ④ 小さな子どもが火あそびをしていたら、すぐにやめさせる。



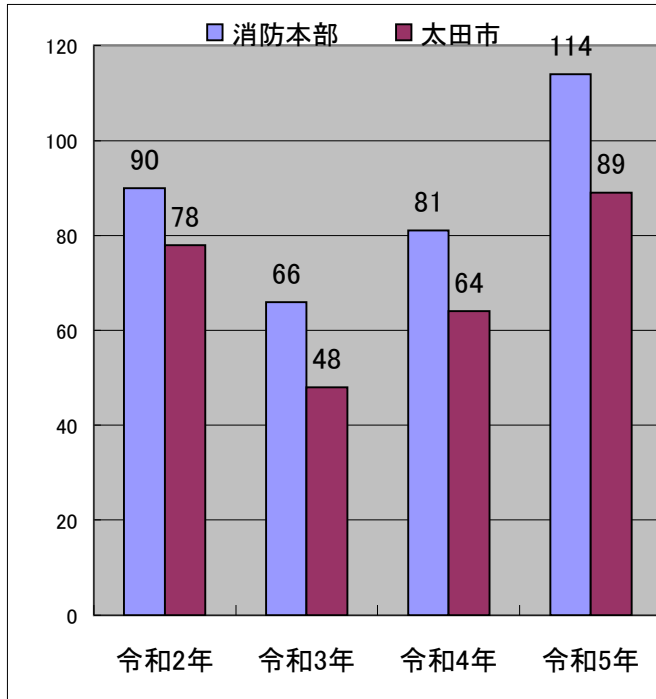
・ 家の人に気を付けてもらうこと

- ① 天ぷらをあげるときは、その場をはなれない。
- ② たばこのすいがらは、きちんとかたづける。
- ③ 家のまわりに、もえやすいものをおかない。

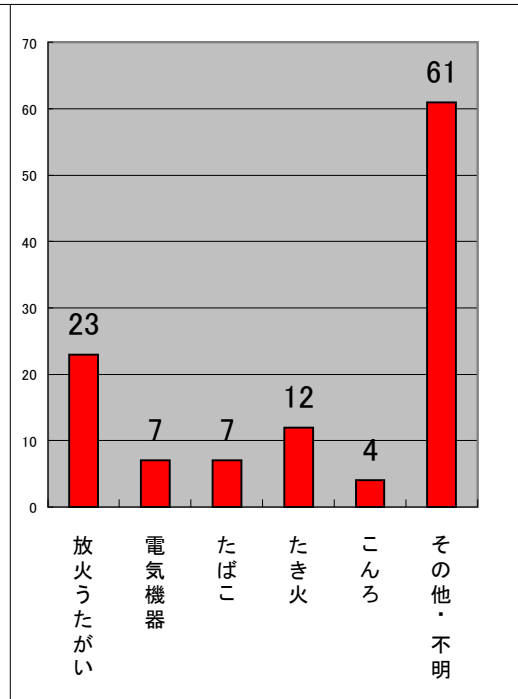


太田市消防本部の火事

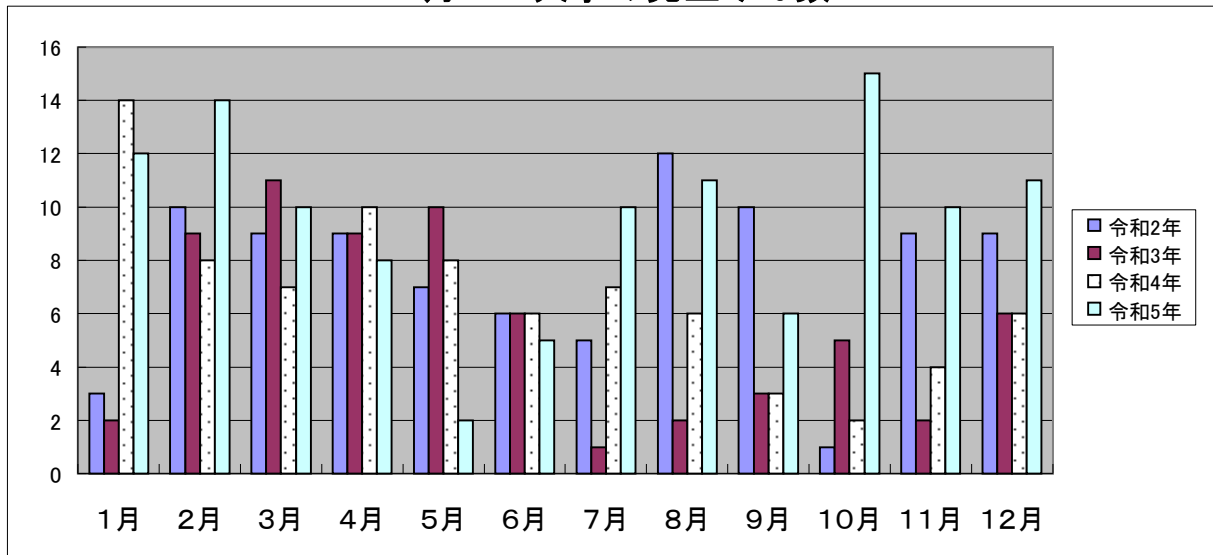
火事のおきた回数



火事の原いんで多いもの(令和5年)



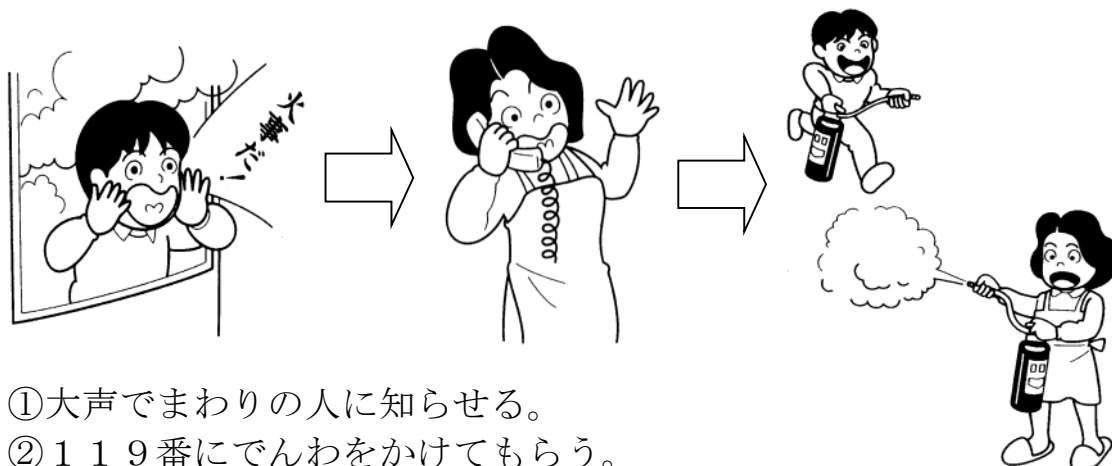
月べつ火事の発生けん数



令和6年度 ぼう火ひよう語

「^{まも}守りたい ^{みらい}未来があるから ^ひ火の^{よう}用心」

○ もし、火事がおこったら

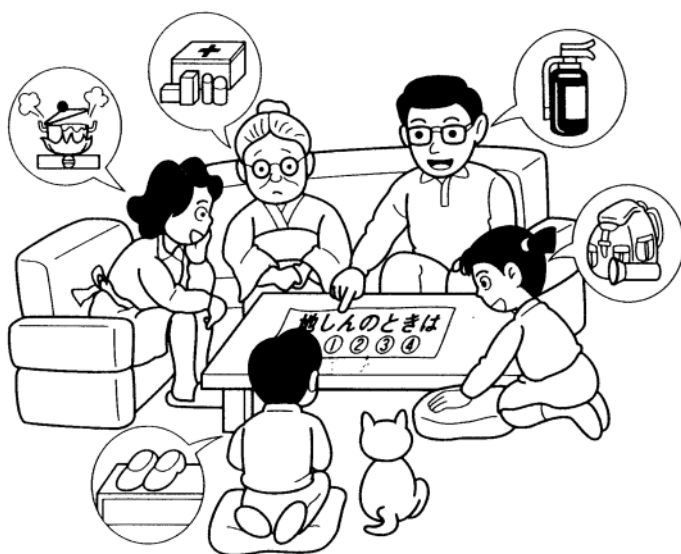


- ① 大声でまわりの人に知らせる。
- ② 119番にでんわをかけてもらう。
- ③ 火を消すのを手つだう。
- ④ できるだけ早くにげる。



○ もし、大きな地しんがおこったら

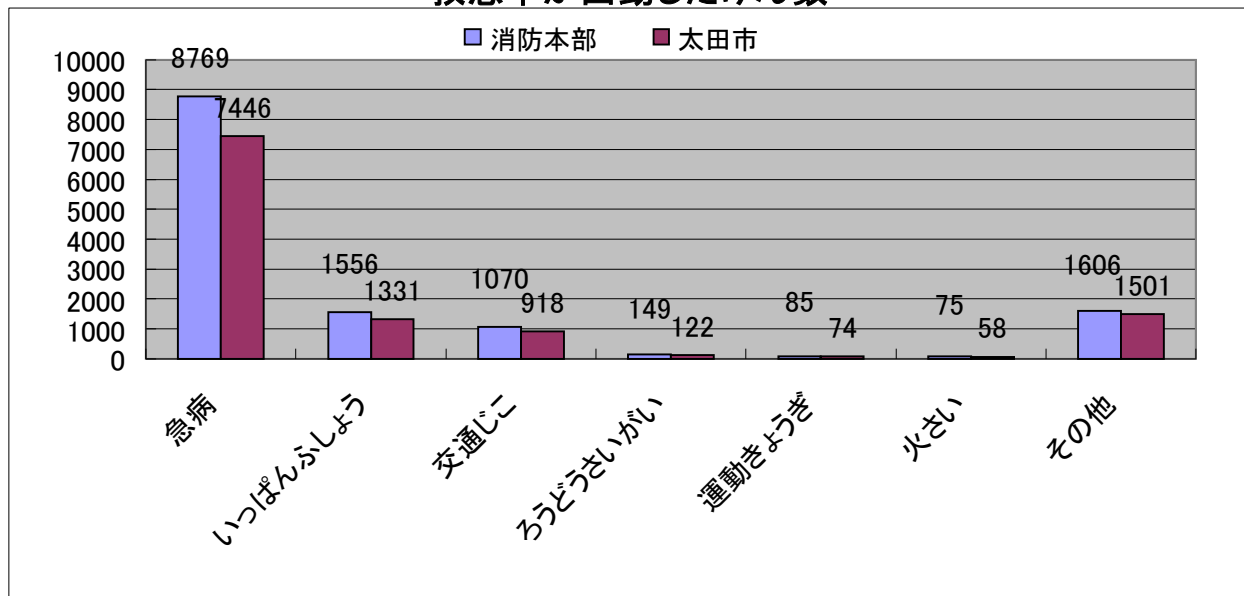
- ① 机の下などに、すばやくかくれる。
- ② 火がついているところがあったら、すぐに消す。
- ③ ゆれがおさまってから、外へにげる。
- ④ 上からおちてくるもの、たおれてくるものに注意する。



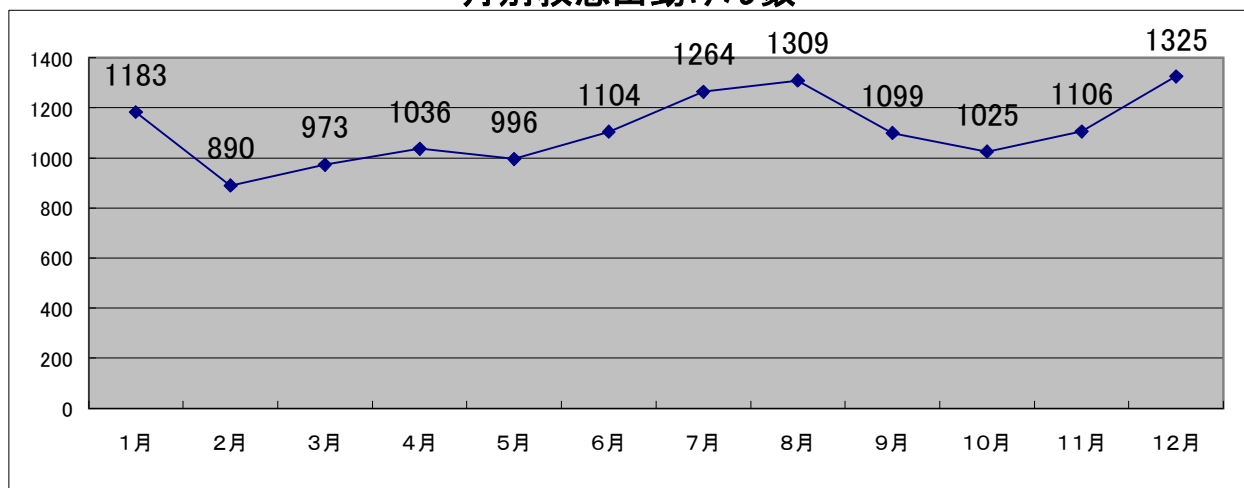
※地しんがきた時
どうするか、家
の人たちと話し
合っておきまし
ょう。

太田市消防本部の救急(令和5年)

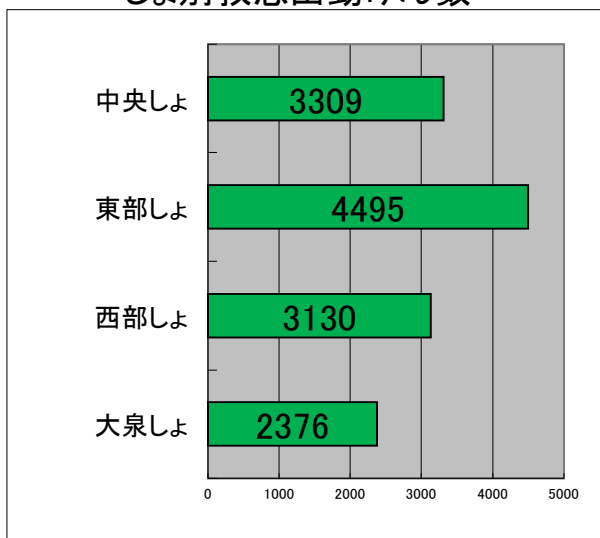
救急車が出動したけん数



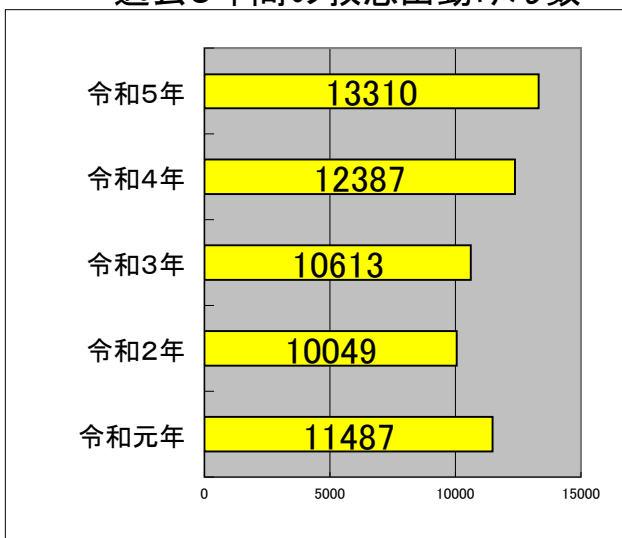
月別救急出動けん数



しよ別救急出動けん数



過去5年間の救急出動けん数



○ かんたんなおうきゅうしょち

①すりきず、切りきずをしたとき

きず口を水であらってよごれをおとしきれいなハンカチやガーゼでおさえて血をとめる。



②やけどをしたとき

すぐに水でおよそ10分～15分ひやしつづける。（ひどいときは、ぬれタオルでかるくつつみ病院へいく）



③打ち身、ねんざ、つき指をしたとき

できるだけ早めにいたいところをひやし、なるべく動かさないようにしてから病院へ行って見もらう。



④目にゴミが入ったとき

- ・ 静かに目をつむって涙をたくさん出す。
- ・ きれいな水の中で目をあけてパチパチする。



⑤のどに物がつまったとき

- ・ せきを5～6回してみる。
- ・ 頭を下にさげて背中をたたいてもらう。



※消ぼうしょでは、みんながこまったときの病院のしょうかいをしています。

（連らく先 電話45-7799）

《 見 学 メ モ 》



さようなら
また来てね！

太田市立	小学校	年	組
氏 名			